

平成21年度採択文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」

# 高度博物館学教育プログラム

*News Letter 2010*

巻頭

國學院大學大学院「高度博物館学教育プログラム」

國學院大學研究開発推進機構・博物館学教育研究情報センター



國學院大學大学院では、高度博物館学教育プログラムが文部科学省 平成 21 年度「組織的な大学院教育改革プログラム」に採択され、昨年 10 月に文学研究科史学専攻のなかに博物館学コースがスタートした。國學院大學が長年培ってきた史学、文学、神道学などの成果をふまえて、大学内外に蓄積された多数の人文科学遺産を博物館（美術館）の場、博物館学を通じて社会に広く伝え、活動方法とその実践を体系的、組織的に学ぶ取り組みである。博士課程前期、後期ともに修士、博士の学位だけでなく、同時に独自のライセンスを取得出来るシステムを設けた。ともに日本最初のモデルとして注目を浴びるだろう。国内はもとより、海外との交流も始まっており、事業は円滑に推進されている。今後も大方の御支援を願ってやまない。



昭和 33 年、樋口清之博士によって全国で 3 番目に開講されました國學院大學博物館学講座は、本年で 52 年目を迎えました。この間、6600 余人の有資格者を輩出し、我が国の博物館界に占める院友学芸員は他大学と比較して最も多く、社会的にも大きな評価を得ているところであります。

平成 21 年 2 月に、学芸員養成の資質向上を目的とした文部科学省による博物館法施工規則の改正により大学において習得すべき博物館に関する科目と単位数が引き上げられたことは、社会のニーズに起因するものと思われまます。かかる社会情勢の中で、養成学芸員の資質向上を目的とし、大学院文学研究科史学専攻の中に「博物館学コース」を平成 21 年 10 月 1 日に設置致し、既に実績を挙げております。今後とも、皆様のご理解、ご支援の程宜しくお願い致します。

## 取組実施担当者

氏名	所属研究科・専攻・職名	現在の専門	学位	役割分担
青木 豊	文学研究科・史学専攻・教授	博物館学	博士（歴史学）	代表者
上山 和雄	文学研究科・史学専攻・教授	近現代史	博士（文学）	副代表者
岡田 莊司	文学研究科・神道学 / 宗教学専攻・教授	神道学	博士（歴史学）	神社との教育連携
小川 直之	文学研究科・文学専攻・教授	民俗学	博士（民俗学）	地域との連携
辰巳 正明	文学研究科・文学専攻・教授	上代文学	博士（文学）	自立的な研究支援
谷川 渥	文学研究科・史学専攻・教授	美学・美術史	博士（文学）	欧米との教育交流
林 和生	文学研究科・史学専攻・教授	歴史地理学・地域研究（中国）	文学修士	地域研究支援
吉田 恵二	文学研究科・史学専攻・教授	歴史・中国考古学	文学士	中国との教育交流
小池 寿子	文学研究科・史学専攻・教授	比較文化史	文学修士	国際広報
谷口 康浩	文学研究科・史学専攻・准教授	先史考古学	博士（歴史学）	広報
落合 知子	文学研究科・史学専攻・准教授	博物館学	博士（学術）	インターンシップ・資格授与支援

# 「高度博物館学教育プログラム」について

## 目的

本プログラムは、博物館学に関する大学教育に携わることが出来る**研究教育者**、ならびに高度な博物館学の知識・技能を有する**上級学芸員**の養成を目的としています。

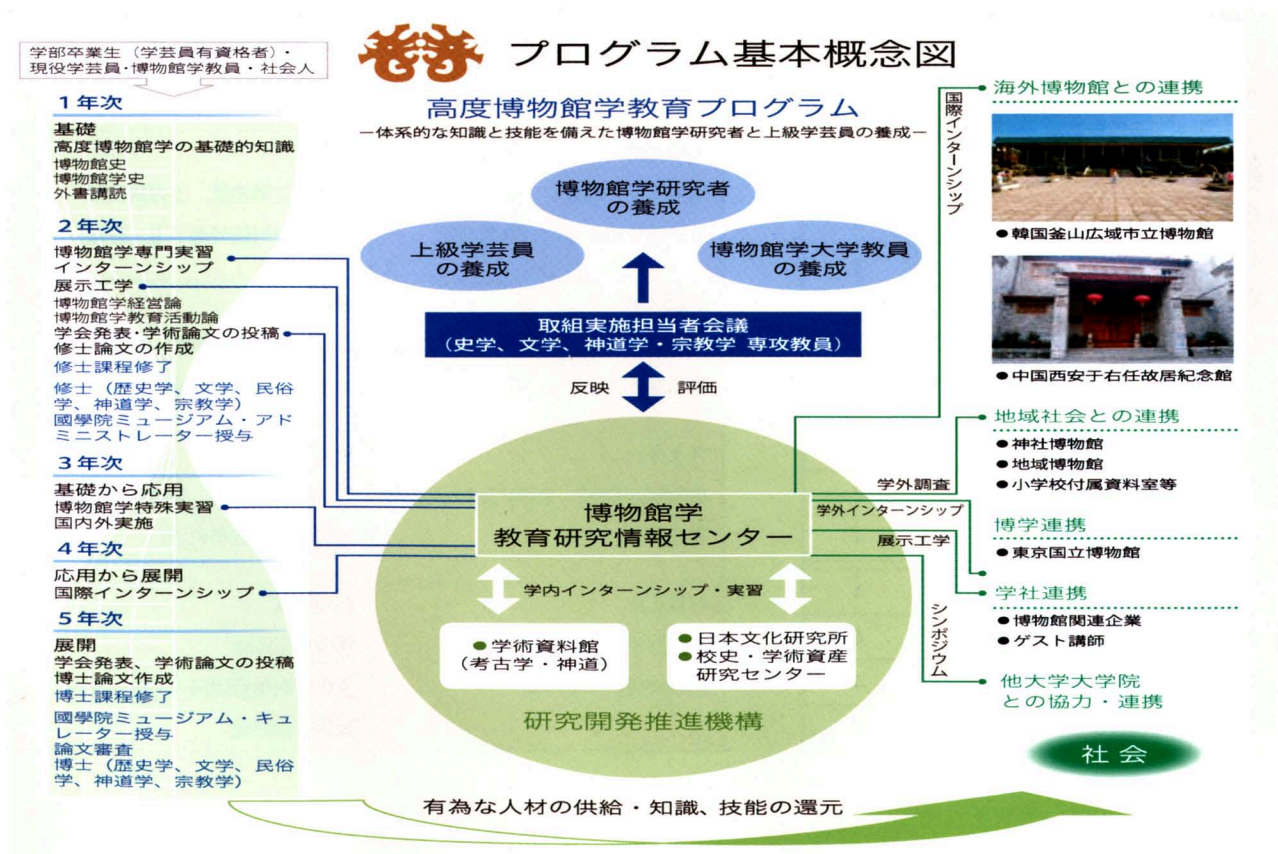
## 特質

平成 21 年度後期より國學院大學大学院文学研究科史学専攻内に新設された博物館学コースを中核に、文学研究科各専攻が培ってきた高度で専門的な人文科学の教育・研究を組み合わせることによって、専門性・学際性を兼備した博物館学研究者や学芸員を養成することにあります。その他、博物館関連企業との連携、**東京国立博物館をはじめとする国内、海外の博物館でのインターンシップ**、本学以外の様々な博物館関連施設への積極的参加により、学芸員としてのコーディネート能力と実務経験を高めることを目標とします。

## 複専修制度

本プログラムは、文学研究科史学専攻を主軸とし、文学専攻、神道学・宗教学専攻を加えた計 3 専攻の課程において高度博物館学の体系的な教育を、主専攻と並行して履修することが可能な**複専修制度**を導入しています。

専攻ごとにそれぞれコースワークは異なりますが、3 専攻とも修了要件単位数を取得することによって、修了時に國學院大學大学院独自の資格が取得出来ます。史学または文学専攻においては、主専攻で培われる古典文献や民俗資料等の専門知識はもとより、当カリキュラムでそれら一次資料の取り扱いの実務に長じることにより、文学館や民俗資料館において指導的役割を果たす学芸員を養成します。また神道学・宗教学専攻においても同様に、神社に関わる資料や文献の取り扱いの実務に習熟することで、神社付属の宝物館や資料館を管理運営することが出来る専門職業人としての神職の養成をします。



## 資格の授与

基礎・応用・展開からなるこれらの体系的かつ組織的なプログラムを実施することにより修士・博士学位授与の質・量の拡充を図るとともに、本学独自の資格である「**國學院ミュージアム・アドミニストレーター**」及び「**國學院ミュージアム・キュレーター**」の資格を授与します。

## 履修課程

必要不可欠な実践的技能の習得についても、國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター資料館などにおいて、通年の恒常的な**学内インターンシップ**を同機構専任教員の指導のもとにRA・TAが参画して実施することにより、収集から整理・保存・展示に至る技能の習熟に努めます。

## 博物館学教育研究情報センター

本プログラムを円滑に実施するための拠点的役割を果たす**博物館学教育研究情報センター**を研究開発推進機構内に新設し、同センターを中心にして海外博物館との共同調査・インターンシップ、本学とかわりの深い神社付属の宝物館や資料館における研究・実習、小学校などに付設された博物館・資料館で地域文化資源の「保存と活用・展示」を実践する専門・特殊実習の授業等を展開します。

## カリキュラム一覧

	科目名	単位数
博士課程前期	論文指導演習	4
	資料保存展示論研究	4
	地域博物館論研究	4
	博物館史特論	2
	博物館学史特論	2
	欧米博物館史特論（外書講読）	2
	博物館関係法規特論	2
	博物館資料論特論AI（金工）	2
	博物館資料論特論AII（有職）	2
	博物館資料論特論BI（民俗）	2
	博物館資料論特論BII（絵画）	2
	博物館経営特論	2
	博物館教育活動特論	2
	展示工学特論	2
博物館学専門実習	4	
後期	論文指導演習	4
	資料保存展示論特殊研究	4
	地域博物館論特殊研究	4
	博物館学特殊実習	4

## 担当教員一覧

青木豊 國學院大學 教授 資料保存展示論研究・特殊研究 博物館学史特論	落合知子 國學院大學 准教授 地域博物館論研究・特殊演習 博物館学専門実習・特殊実習
小川直之 國學院大學 教授 博物館資料論特論BI（民俗）	鷹野光行 お茶の水女子大学 教授 博物館史特論
矢島國雄 明治大学 教授 欧米博物館史特論（外書講読）	池田宏 東京国立博物館 上席研究員 博物館資料論特論AII（有職）
原田一敏 東京藝術大学 教授 博物館資料論特論AI（金工）	岩崎均史 たばこと塩の博物館 主任学芸員 博物館資料論特論BII（絵画）
井上洋一 東京国立博物館 事業学芸企画部課長 博物館経営特論	栗原祐司 文化庁文化財部 美術学芸課長 博物館関係法規特論
駒見和夫 和洋女子大学 教授 博物館教育活動特論	石川貴敏 (株)丹青研究所 文化空間情報開発研究部 部長 展示工学特論

## 事業経過報告

### 平成21(2009)年度

平成21年度は翌年以降の事業推進に関わる準備、および特別講義等の教育活動を主に実施致しました。

10月1日：博物館学教育研究情報センター発足

10月22日・23日：長野県下高井郡木島平村と学外実習事前協議調査

11月2日～4日：大韓民国釜山広域市立博物館と海外インターンシップ事前協議調査

11月20日～23日：中華人民共和国西安于右任故居紀念館と海外インターンシップ事前協議調査

12月15日：「高度博物館学教育プログラム」紹介リーフレット刊行

12月23日～25日：熊本県球磨郡水上村市房山神宮と学外実習事前協議調査

1月24日～29日：イギリス大英博物館と共同教育研究活動事前協議調査

### ①釜山広域市立博物館合意覚書取り交わし 2010年1月11日

11月に、釜山広域市立博物館楊孟準館長・同白承玉学芸研究室長と詳細に協議を行った結果、國學院大學と釜山広域市立博物館との間で、本学大学院生の同博物館におけるインターンシップ受け入れに関して了解を頂き、1月11日に両者間でその最終的な細部の協議と合意覚書の取り交わしが行われました。博物館側の受け入れ態勢など細部について懇切なご配慮を頂き無事にすべての調整が整い、國學院大學（鈴木靖民大学院委員長）と釜山広域市立博物館（楊孟準館長）との間で正式に合意覚書を取り交わしました。

博物館楊孟準館長・白承玉学芸研究室長をはじめ、関係諸氏のご協力に厚く御礼を申し上げます。



釜山広域市立博物館



取り交わしの様子



### ②特別講義

2009年12月7日：釜山広域市立博物館学芸研究室長 白承玉氏「釜山広域市立博物館の現状と今後の課題」

2009年12月19日：釜山大學校講師 全玉年氏「大韓民国の博物館」

西安于右任故居紀念館館長 于大方氏「中華人民共和国陝西省の博物館事情」



白承玉氏



全玉年氏



于大方氏

## 平成 22 (2010) 年度

本年度の主な事業はプログラム科目の開講とインターンシップの実施、「神社博物館事典」刊行、学生の研究能力向上を目的とした研究調査（国内神社博物館・海外博物館）の推進、および特別講義等の実施です。

- 4 月 1 日：プログラム対象学生入学
- 4 月 3 日：博物館学教員打ち合わせ会
- 4 月 8 日：高度博物館学教育プログラムの全講義開講
- 5 月 7 日：神社博物館アンケート調査開始
- 5 月 20 日：仁済大専校博物館館長李永植氏による特別講義実施
- 6 月 9 日、10 日：長野県下高井郡木島平村学外実習事前協議調査（第 2 回）
- 6 月 18 日：博物館学講座協議会における講演で「高度博物館学教育プログラム」を紹介
- 6 月 22 日～25 日：大韓民国釜山広域市立博物館インターンシップ実施に向けた事前協議・調査（第 2 回）
- 6 月 30 日：神社博物館アンケート調査終了
- 7 月 1 日：株式会社丹青研究所との合意覚え書き取り交わしの約束
- 7 月 13 日：廣池千九郎記念館と共同研究教育交流事業実施にむけた最終実務協議実施
- 7 月 19 日～25 日：学外実習①長野県下高井郡木島平村
- 8 月 16 日～19 日：大学院生海外インターンシップ館である釜山広域市立博物館へ上山和雄教授が中間訪問
- 9 月 1 日～7 日：学外実習②熊本県球磨郡水上村
- 9 月 25 日：北海道大学教育 GP セミナーにおける講演で「高度博物館学教育プログラム」を紹介
- 9 月 29 日：大学院生海外博物館インターンシップ報告会
- 10 月 6 日：大英（ブリティッシュ）博物館アジア部門日本セクション長のティモシー＝クラーク氏を招聘
- 10 月 9 日：國學院大學大学院主催「高度博物館学講演会」開催
- 10 月 12 日：西安于右任故居記念館副館長于大平氏来日
- 10 月 19 日：大学院博物館学コース秋季入試（博士課程前期、一般・留学生）合格者発表 6 名合格
- 10 月 26 日：大学院博物館学コース秋季入試（博士課程前期・社会人、博士課程後期）合格者発表 4 名合格
- 11 月 25 日：『博物館研究』第 45 巻第 12 号で高度博物館学教育プログラムを紹介
- 12 月 1 日：長野県下高井郡木島平村村長芳川修二氏来訪

### ①共同研究教育交流事業合意覚え書き取り交わし

#### 《市房山神宮一宮神社》

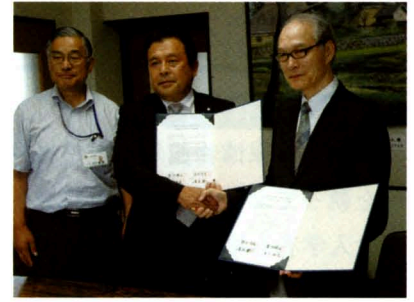
2010 年 5 月 27 日に、熊本県球磨郡水上村市房山神宮一宮神社（尾方立宮司）と國學院大學大学院（鈴木靖民委員長）との間で、本学大学院生の夏期学外専門実習・特殊実習受け入れを主とする共同研究教育交流事業に関する合意覚え書きを取り交わしました。市房山神宮一宮神社をはじめ、関係諸機関・諸氏のご協力に厚く御礼を申し上げます。

#### 《株式会社トータルメディア開発研究所》

2010 年 7 月 6 日に、東京都千代田区株式会社トータルメディア開発研究所（澤田敏企代表取締役）と國學院大學大学院（鈴木靖民委員長）との間で、本学大学院生のインターンシップ受け入れを主とする共同研究教育交流事業に関する合意覚え書きを取り交わしました。株式会社トータルメディア開発研究所をはじめ、関係諸機関・諸氏のご協力に厚く御礼を申し上げます。

### 《長野県下高井郡木島平村》

2010年7月13日木島平村役場村長室において、長野県下高井郡木島平村（芳川修二村長）と國學院大學大学院（鈴木靖民委員長）との間で、國學院大學大学院と長野県下高井郡木島平村との「共同研究教育交流事業に関する合意覚書」が取り交わされました。これにより本プログラムにおいて初の行政との提携となりました。木島平村をはじめ関係諸機関・諸氏のご協力を厚く御礼を申し上げます。



取り交わしの様子

### 《廣池千九郎記念館》

7月17日國學院大學大学院（鈴木靖民委員長）と千葉県柏市廣池千九郎記念館（井出元館長）との間で、本学大学院生のインターンシップ実施を主とする共同研究教育交流事業実施に関する合意覚書を取り交わしました。廣池千九郎記念館館長をはじめ、関係諸氏のご協力を厚く御礼を申し上げます。

### 《西安于右任故居記念館》

7月29日國學院大學大学院（鈴木靖民委員長）と中華人民共和国西安于右任故居記念館（于大方館長）との間で、本学大学院生のインターンシップ実施を主とする共同研究教育交流事業実施に関する合意覚書を取り交わしました。于大方館長をはじめ、関係諸氏のご協力を厚く御礼を申し上げます。



取り交わしの様子

### 《富士浅間神社》

### 《静岡県駿東郡小山町》

## ②特別講義

5月20日 仁済大學校博物館館長

李永植氏「韓国仁済大學校博物館の運営と社会教育プログラム」

10月9日 國學院大學大学院主催「高度博物館学講演会」

・取組実施担当者代表・文学研究科 青木豊教授

「高度博物館学教育の必要性」

・大英博物館日本美術担当長 ティモシー＝クラーク氏

「ひらかれた大英博物館：来場者との新たな関わり」

・電気通信大学 UEC コミュニケーションミュージアム学術調査員 高橋雄造氏

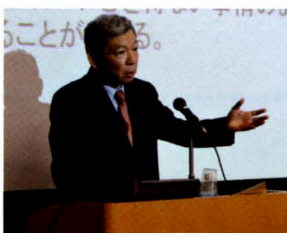
「博物館の歴史」

・太宰府天満宮 味酒安則氏

「近未来の神社博物館」



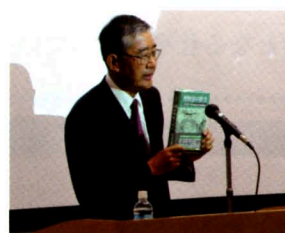
李永植氏



青木豊教授



ティモシー＝クラーク氏



高橋雄造氏



味酒安則氏

## 博物館学研究室

### 准教授 落合知子

國學院大學博物館学研究室は樋口清之博士の創設以来、はや50余年の歴史が流れ、現在は青木教授が指揮を執っておられる。現役研究生も30名以上を数え、博物館学を学ぶために他大学は勿論のこと、海外からの入学者も増え、博物館学なら國學院大學でという概念が定着したといえる。さらに昨年10月からスタートした文科省の大学院GPプログラムにより、一層充実した博物館学教育が実践されている。その一つが専門・特殊実習で、学部4年次に学んだ実習能力を活かし、より高度な技術の修得を目指す。夏期の地方集中実習では、一貫した文化財の調査方法と修理修復までを学ぶ。博物館学は机上の学問ではないことを実感し、調査における協調性が問われる。自然とコミュニケーション能力も向上していく。また、神社調査という同じ目標を掲げて、学生たちは単独で日本全国に調査に出掛けた。海外調査に参加した学生たち、1ヶ月に亘り韓国・中国にインターンシップに挑んだ学生たち、今後の研究成果が楽しみである。

### 助手 下湯直樹

教育的な取り組みとして、博物館学教育研究情報センターのRAやTA共々、国内外から有識者を招聘し、特別講義を開催するなどの準備や運営を実務いたしました。また、研究的な取り組みとしては神社博物館調査の担当者として、今夏に博物館実習の一環で南紀地方に所在する伊勢神宮や熊野三山神社などを調査し、また宮崎・鹿児島、青森・秋田に出張し、当該地域に所在する神社博物館調査を実施しました。『神社博物館事典』刊行に伴い、調査した25社の神社博物館の概要の記載とともに、論考編にも当調査で得た知見を生かした論文を著しました。以上の教育・研究を中心として、高度博物館学教育プログラムに携わっております。

## 博物館学教育研究情報センター

### 研究開発推進機構：特任助教 伊藤慎二

博物館学教育研究情報センターは本事業推進の拠点として、研究開発推進機構研究開発推進センター内に昨年10月に発足しました。主な業務はプログラムに基づく国内外の教育研究活動実施先との調整交渉や、学生の研究教育活動の実務面での補佐、プログラム成果の対外情報発信作業などです。海外の博物館におけるインターンシップや相互交流事業、国内のインターンシップ先となる博物館・博物館関連企業・地方自治体・神社などとの調整や、成果刊行物の編集作業を実施しています。これらの業務を通して、対象大学院生が将来的に大学における博物館学研究教育者あるいは高度な博物館学的知識と技能を備えた博物館学芸員となるための支援を行っています。

### リサーチアシスタント 上西亘・小島有紀子

リサーチアシスタントとして事業の推進に関わり、神社博物館等の調査を実施しております。さらには教育研究活動の支えとなる事務処理をはじめ、学外実習の準備、刊行物の編集などを行い、学生の皆様と直接関わりながら研究推進の一助となる仕事を行っています。

### ティーチングアシスタント 伊藤大祐・李文子・野中優子



## 博物館学コース複専修制度 複専修学生のコメント

### 博士課程前期史学専攻考古学コース 齋藤 唯

考古学を専攻する私が博物館学を複専修したのは、考古学と博物館学が必ずしも別物ではないという考えと好奇心からです。実際に受講してみると、博物館学の奥深さや考古学とは異なる視点など多くの事柄を学ぶことができます。私自身は埋蔵文化財にかかわる仕事をしたいと考えておりますが、それらは必ずしも博物館とは分離されたものではなく、発掘調査や研究の成果を地域に還元できる場として博物館があり、博物館法においても文化財の「一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること」と博物館の事業に規定されています。それをより効果的に行うためにも博物館学を学ぶことは自身の将来の役に立つと考えます。

### 博士課程前期史学専攻考古学コース 佐藤直紀

学問を行うものとして常に考えなければならないのは、「自身の学問が如何に社会に貢献するのか」という点です。文系の学問は自然科学系の学問と違い、研究が新技術の開発に直結するといった事はありません。しかし、人は自身を形作る基盤となっている文化がなくては、愛国心や地域愛といった心を育むことは出来ません。こういった意味で、文系の学問は、地域社会に対して大きな貢献を果たしていると言えます。そして、全ての人間が全ての研究者と同様の専門知識を得ることが不可能である以上、平易な形で学問や信仰や文化を提示する場が必要になります。そういった意味で、博物館は必要不可欠であると言えます。本プログラムで複専修として履修し、神社博物館調査に参加したことにより、専門性を高め、市民に分かりやすく学問を提示していく形を模索していきたいという考えに辿り着き、研究を進めていこうと思いました。

### 博士課程前期史学専攻美学・美術史コース 樋田麻純

私は卒論において展開したテーマを継続し、複専修としての研究においては、ルネ・ラリックの作品展示および保存の確認を通じて、工芸作品の芸術的価値の明確化を行うことを目的としている。

工芸とは、実用品に芸術的な意匠を施す人々の生活を彩る芸術であるが、美術史上において金銭的価値を重視する傾向があり、いまだかつて的確な地位を与えられたことはなかった。工芸の美術的側面と実用的側面を相互に考察し、その本質的な特性を再検討することにより、工芸の地位向上を目指したい。工芸作品は、どれほど美しくすばらしい技巧を用いようとも絵画や彫刻と比べれば見劣りしてしまう。しかし、それが意図した環境の中に置かれたとき、偉大なる芸術に勝るとも劣らない効果を発揮する。この効果が現在の日本の展示で発揮できるのかが課題である。工芸展示の可能性の追求により、工芸の真の芸術的価値の構築を目指したい。

### 博士課程前期史学専攻日本史学コース 藤井未央

普段、私たちは専門の分野の研究をしていると、その研究がどのように社会に還元されていくかということ、その研究がどのように市民に活用されていくかということを知る機会は少ない。そして研究が深まると同時に狭くもなり、他分野との連携や人文科学系、自分の研究分野を含めた学問全体の今日の流れが見えにくくなっている。しかし、博物館学を学ぶことによって、その見失いがちな学問の流れや、市民還元などが広く見えてくる。複専修として博物館学を学び、自分の専門分野ばかりに興味傾きがちであった狭い視点が変わり、より広い視野が持てるようになった。学問と学問の、学問と社会の繋がりも私なりにではあるが見えてきたように思う。博物館学とは単に博物館について学ぶだけの学問ではない。学問について研究する学問であると思う。

## 特カリキュラム紹介

### カリキュラム紹介1 博物館学専門・特殊実習

落合知子 准教授

この授業では修士2年以上の大学院生を対象とし、学部で修得した博物館学の実習技術を発展・応用させ、実践していくことが目的です。夏期休暇中には学外実習を行い博物館学芸員としての実績と経験を積みます。

前期は夏休み期間中の学外実習に向けた準備期間として、実際の資料に触れながら、修復する資料の特質を理解し、資料の状態に応じた適切な修復方法を考えるとともに、資料の修理・修復に関するあらゆる分野に関心が持てるように学んでいきます。本年は主に学外実習中の資料整理作業や報告書作成にあたっての作業を想定したカリキュラムで、紙資料の装幀技術を用いた実物資料「集古十種」の修復や、土器・陶磁器などの実測練習、実習中に使用するカメラやパソコンなどの機材の扱い方を学びます。大学院専門実習室には最新の設備が整っており、資料の整理・修復作業を行うには恵まれた環境です。講義的な授業ではなく、履修生が自主的に考え、協力して作業を進めるという実践的な内容なので個人に責任は伴いますが、その分貴重な経験となり、年度末には報告書という成果が出せるので、博物館学芸員としての確かな実績を残すことができます。

後期の授業では、古文書の修復、学外実習の整理作業と教育普及に関する業務を行います。本実習は3つの班に分かれて行われ、2班が夏期学外実習のデータ編集作業を行い、1班が資料の情報伝達具を制作します。学外実習は夏期休暇期間中に長野県下高井郡木島平村と熊本県球磨郡水上村の2つの班に分かれ、それぞれ約1週間の日程で行われました。前者は木島平村大町民俗倉庫内に保管されている民俗資料の調査を実施しました。後者は水上村に鎮座する市房山神宮（本宮）・一宮神社（中宮）にて、絵馬や本殿内部の奉納品の調査を実施しました。また、情報伝達具の制作は、加古川総合文化センターの常設展示の資料を活用し、1点の資料から、子どもでも理解可能なイラストと解説文を用いて作成するものです。

この「博物館学専門・特殊実習」の目標は扱う資料の特質の理解と的確な修復技術の修得にあります。学内実習ですが、資料と向き合う際は常に緊張感を持って取り組む必要があります。そういった緊張感を持って取り組むことは学芸員として職務に就く上でも必要な資質の1つであり、技術修得はもとより、資料に対する心構えを身に付けることが本実習の最も重要な使命であるといえます。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース2年 片柳圭輔・田島太良)



### カリキュラム紹介2 資料保存展示論研究・特殊研究

青木豊教授

資料保存展示論研究・特殊研究は、演習形式の講義で、受講者が博物館資料の保存と展示について、自分が関心を持つテーマに基づいた発表を行い、そのことについて討議を行います。自らの研究テーマに基づいた保存と展示に関する発表と討議を行うことにより、保存と展示の観点から博物館資料に対する関心を深め、本来矛盾した行為である博物館における資料の保存と展示の基本理論を理解するとともに、自らの研究を研鑽することを目的としています。

(博士課程後期史学専攻考古学コース 5年 森健太郎)

### カリキュラム紹介3 地域博物館論研究・特殊研究

落合知子准教授

地域博物館論研究の授業では野外博物館について研究をする。野外博物館とは、野外を展示教育諸活動空間とする形態の博物館である。野外に存在する多くの事象が野外博物館の要素となり得るという考えから、歴史的建造物を活用した博物館について博物館学の側面からの検討、世界遺産とその地域博物館、風土記の丘等についての考察が行われている。町並み保存、近代化遺産、史跡整備等にもさらに関心を持つようになり、そのような場所を訪れるきっかけになる授業である。

(博士課程後期史学専攻博物館学コース 1年 李 文子)

### カリキュラム紹介4 博物館学史特論

青木豊教授

博物館学史特論は、今年度(平成22年度)から高度博物館学教育プログラムと博物館学コースの独立に伴い、新設された講義です。「明治時代の博物館思想を読み解く」ことをテーマに、明治8年の栗本鋤雲による我が国最初の「博物館論」を始め、坪井正五郎や黒板勝美らの著した明治期の博物館学に関する論文を講読することにより、博物館の基本理念を養い、博物館学思想の芽生えと変遷を理解することを目的としています。

(博士課程後期史学専攻考古学コース 3年 伊藤大祐)

### カリキュラム紹介5 博物館史特論

鷹野光行先生

鷹野光行先生のもと、博物館の年報・館報を題材とし、博物館の成り立ちと現在の活動について考察することで、博物館活動の実態を把握し、博物館史から博物館の教育機能を見ていく授業を展開している。受講者は10名ほどであり、講義形式ではあるものの、先生が学生へ意見を求めたり、課題を与えたりすることによって、積極的なコミュニケーションがはかられた授業となっている。授業内容としては、博物館における用語使用の変遷と歴史など、博物館学における広範囲にわたる博物館学史が学べるカリキュラム構成で行われている。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 坂倉永悟)

### カリキュラム紹介6 欧米博物館史特論

矢島國雄先生

欧米博物館史特論では、K. Schubert『The Curator's Egg』の第1章をテキストとして使用し、欧米博物館史を通史的に学ぶ。このテキストは英国・フランス・ドイツ・米国の4ヶ国を主とした博物館史であるが、学生が分担で原書を翻訳しながら授業を進める。その際に、先生が要所において18世紀当時の欧米諸国全体の政治状況や、思想等の社会背景との関連について説明する講義内容となっており、博物館史を基本としながらも博物館成立期の欧米文化史についても触れることができ、グローバルな視点を養うことができる講義である。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 2年 渡邊亜祐香)

### カリキュラム紹介 7 博物館教育活動特論

駒見和夫先生

本講義は、博物館を公教育機関と位置づけ、博物館における教育活動のあり方を考えるものである。博物館の有する諸機能は、教育を目的とするものであり、その一層の充実を図る為の具体的な方策を、特に展示機能に焦点をあて考察する。展示を〈視覚型展示〉と〈知覚型展示〉という視点から比較を行い、その上で〈知覚型展示〉に立脚した博物館資料に対する考え方や、教育に対する今後の方向性を提示するものである。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 中村千恵)

### カリキュラム紹介 8 博物館関係法規特論

栗原祐司先生

現代の博物館が抱える様々な問題について、主に法令集の読み方・解釈をご指導いただきながら、それらの文面から読み取る授業です。

例えば博物館運営の基盤となる博物館法が、実情に即した規定でないため形骸化していること、指定管理者・独立行政法人等新しい制度の導入が、博物館制度に大きな影響を与えていることを、具体的な事例を交えながら教えていただきました。また最新の諸制度の改正状況も学べるため、博物館界の「今」へも見識を広げることが出来る授業です。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 河合奈々瀬)

### カリキュラム紹介 9 博物館経営特論

井上洋一先生

博物館経営特論の授業は、主に対話形式で授業が行われている。現代社会における博物館の役割を考えるとともに、現在、博物館が抱えるさまざまな問題を取り上げ、それぞれの分析を通して博物館の存在意義を確認することを目的とした授業となっている。この対話形式の授業を通して、経営・運営を含めたミュージアム・マネジメントや、ミュージアム・リテラシーに関する問題を自ら積極的に考え、さらに、説明できるよう実践的なマネジメントを考える力を養うことができる。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 門井優子)

### カリキュラム紹介 10 展示工学特論

石川貴敏先生

展示工学特論の授業では、現在日本の多くの博物館が抱えている課題である展示は如何にあるべきかを、講義全般を通じて考察する。具体的には現在の博物館における展示の事例を紹介(解析)し、展示が如何に作られているかを概説する。この授業に通じて、展示を多様な見地から観られるようになり、博物館の有り様を見つめ、さらには展示や博物館を取り巻く様々な事象を論じることで、文化情勢も概観できると確信している。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 楊 鋭)

### カリキュラム紹介 11 博物館資料論特論 A I (金工)

原田一敏先生

日本の金工は弥生時代に始まるが、そうした各時代に特徴的な作品を取り上げて、時代性や様式など、作品を鑑る目の基準作りに役立てることを目的としている。鑄造・鍛造・彫金の技法にはじまり、現代にいたるまでの進歩をビジュアル的に学ぶことが出来る、実物資料(鏡・装剣金工など)による資料について学ぶことが出来る。学芸員としての実物を見る目を養うことが出来る授業である。

(博士課程後期史学専攻博物館学コース 1年 大竹弘高)



### カリキュラム紹介12 博物館資料論特論AⅡ(有職)

池田宏先生

本講義は一般に有職故実と言われる、平安時代から江戸時代までの男装・女装の種類や、服装の歴史的な変遷について概観することで、博物館における文化財の調査、研究の方法について理解することが目的である。どのような分野の資料を取り扱うことができるのかは、博物館学芸員として重要な資質となりえるという考えから、工芸品のうち甲冑を取り上げ、文献、絵画作品などを含めた検討が行われ、さらに甲冑の取り扱い、それらの展示方法についての基礎的な知識を得ることも可能である。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 2年 大貫涼子)

### カリキュラム紹介13 博物館資料論特論BⅠ(民俗)

小川直之先生

博物館における民俗資料の取り扱いについての講義である。授業内容としては、文化財保護法による有形および無形民俗文化財を含めた、民俗資料の全体像の確認を行う。さらに、個別の内容として民俗資料を代表する「民具」の性格や、その情報をいかに展示に活用することができるかなど、「民具」を取り扱う際の観点を理解する。小川先生の元学芸員としての経験談から、授業は学芸員業務の実践をイメージできる形で行われ、学芸員としての専門分野の重要性を学生自身が再確認できる授業である。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 齊藤千秋)

### カリキュラム紹介14 博物館資料論特論BⅡ(絵画)

岩崎均史先生

本講義は、絵画作品の歴史資料としての活用の現状を示し、美術史的な作品の考察・歴史資料としての見方を理解した上で、実際に幾つかの作品が例として取り上げられている。授業では絵画作品の史料としての利用についての現状と課題が取り上げられ、「洛中洛外図」「近世初期風俗画」「浮世絵版画」を絵画作品の読み方の教材として使用している。絵画作品の歴史資料としての利用が増えてきている近年において、学芸員の実務、ひいては博物館運営に関わる資料の見方を学べる授業となっている。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 中島金太郎)



授業風景

## 博物館学専門・特殊実習 学外実習報告

長野県下高井郡木島平村(2010年7月19日から7月25日)

本実習は、平成22年度より開講された大学院講義科目「博物館学専門・特殊実習」の学外実習として、平成22年7月19日から25日までの1週間をかけて、長野県下高井郡木島平村において実施されました。

指導教員は取組実施代表者・青木豊教授、博物館専門・特殊実習担当教員・落合知子准教授の2名、参加学生は大学院博物館学コース在籍者6名、考古学コース在籍者1名の計7名でした。本実習では、同村大町民俗倉庫内に保管されている民俗資料の調査、およびその資料を使用した、木島平村の「農村文明」をメインテーマとした博物館の新設を目指しており、本年は実習初年度であることから、まずは資料調査を中心に実施しました。

保管されていた資料は、約45年前に村内3ヶ所の小学校(北部・中部・南部)用の教材として収集されたものであり、それぞれの小学校の改築に伴い、村役場横のプレハブ倉庫へ移動したのち、乾燥などによる資料の劣化等の保存環境の不安から、平成19年に大町民俗倉庫へ移され保存されたという経緯を持つ資料でした。本実習は、大学院に平成21年10月に新設された博物館学コースの課程の中で、初めての学外における専門実習であったため、写真撮影上の準備、カメラのセッティング及びライティング、基本資料台帳の作成、資料のクリーニング・セッティング・ナンバリング・計測(実測)、収集情報のデータ化(パソコン入力)などの作業を分担しながら、参加学生全員が作業工程全体に従事できるように行い、実習最終日には学生のみで調査を進められるようになりました。

今回の学外実習期間内では、約350点の民俗資料のクリーニング・実測・台帳作り等の資料整理が終了しました。しかしながら、大町民俗倉庫には未調査の資料が現在も多数残っており、来年度以降も継続して資料整理・台帳化をおこない、博物館の開館を目指します。

また、今回は宿舎において、到着日19日には木島平村村長の芳川修二氏より「木島平村の村格」、同村教育委員会生涯学習課長の日台正博氏より「木島平村について」、実習3日目には同村木島平村中学校校長の樋口和雄氏より「長野県の歴史」というテーマで、それぞれ特別講義を行って頂きました。また、村内において史跡根塚遺跡および公民館内の遺跡出土資料展示スペース、隣接する飯山市のふるさと館などを見学し、広く学外実習を実施いたしました。

(博士課程前期史学専攻考古学コース3年 有田大悟)



## ②熊本県球磨郡水上村(2010年9月1日から9月7日)

本プログラムでの博物館専門実習・特殊実習の一環である学外実習調査の第2回目が、9月1日から9月7日の行程で、青木教授・落合准教授の指導の下、博物館学コース3名・考古学コース1名・神道学・宗教学専攻1名の学生を含めた計7名の参加者により、熊本県球磨郡水上村鎮座の本宮である市房山神宮と中宮である一宮神社で行われた。

まず、市房山中腹に鎮座する市房山神宮(本宮)拝殿に奉納されている絵馬33点と本殿内部の奉納品類から調査を実施し、市房山神宮宮司工藤駿介氏、一宮神社禰宜尾方立氏、同権禰宜尾方聖多氏に御指導を頂いた。市房山神宮(本宮)拝殿の絵馬は三十六歌仙を描いた物であり、拝殿の壁上方を取り囲むように配置されていた。長い年月を経て絵部と、絵馬を留めている和釘双方に劣化が進んでいた。そのため、容易に外す事が出来た資料には、それぞれ胡粉の剥落防止処置を行い、それ以外の取り外すことができなかつた資料に関しては、資料の破損を防ぐために、取り付けられた位置のまま写真撮影を行った。保存処理を行った絵馬の裏書きは、いずれも寛永9年に相良徳千代丸が大願主として奉納されたとあり、取り外すことのできなかつた資料も同様のものと推定される。絵馬の調査終了後、市房山神宮本殿内部の保存されている資料の調査を実施した。ここには崇敬者より奉納された鳥居様の鉄製・ブリキ製模造品数十基、武器様の鉄製模造品数点、懸仏二点があったが、保存・資料化実習の対象として取り扱いを実施した。

3日目からは市房山の麓に鎮座する一宮神社(中宮)の社務所を作業所としてお借りして、引き続き調査を行った。調査の主な内容としては、2日に市房山神宮(本宮)本殿で調査した資料の洗浄・写真撮影・計測等台帳化に必要な作業、および一宮神社の本殿と一宮神社摂社の稲荷社奉安の資料類を調査の対象として取り扱った。一宮神社本殿も市房山神宮と同様に三十六歌仙絵馬や、鳥居・武器様の鉄製模造品数十点などが奉納品として安置されていた。それらを全て作業所に移し、市房山神宮(本宮)と同様の作業を行い、資料化を行った。その中で特筆すべきものとして、特徴から中世頃の作品と推定される無釉の陶質土器五点があり、地元の有識者からの意見でも他に類を見ない資料であることから、実測図の作成や印花紋の拓本成作など特に詳細な資料化を行った。

その他、宿舎においても青木教授の指導の下、実測図の製作実習や、相良村教育委員会参事の出合宏光氏を講師に招き講演を賜るなど、神社での実習のみならず、宿舎においても充実した時間を過ごすことができ、本資料の取り扱いなど、今後につながる実習調査を行うことが出来た。

(博士課程後期神道学・宗教学専攻3年 上西 亘)



市房山神宮での実習風景

## 海外インターンシップ実施報告

### ①大韓民国釜山広域市立博物館(2010年7月28日から8月26日:うち12日間)

釜山広域市立博物館は総合博物館である本館と、それぞれ異なる特色をもった分館（福泉博物館・近代歴史館・臨時首都記念館・東三洞貝塚展示館）で構成されており、今回のインターンシップは本館を中心とし、各分館でも1日ずつ実施させていただきました。

実施内容としては、「こどもの体験プログラム」や「文化体験館」、「初等（小学校）教師の歴史教室」等の各種教育プログラムへ参加をさせて頂き、どのようにすれば子供に展示内容が伝わるのか、博物館教育は釜山博物館においてどのように機能しているのか、大韓民国における公務員制度や成人への博物館教育などを学ばせて頂きました。その他にも国際交流展示における資料貸借の際の遺物確認作業の見学、韓国での資料の取り扱い方法や確認作業の流れなどを教えていただき、あわせて鉄器の保存処理施設も見学しました。

更に本館では来館されているお客様に自分の研究題目である「博物館における展示の教育性」を探るために「博物館とはどういう存在か、展示とは何か」という内容のインタビューを実施させていただき、韓国の社会における博物館の位置づけを探る上で貴重な研究をさせて頂きました。

釜山広域市立博物館は地域社会の文化資源のシンクタンクとしての機能あり、それが地域社会に還元されていました。博物館の機能が十分に連携して運営されており、釜山広域市立博物館自体の機能に驚くとともに、館長をはじめとする学芸士（学芸員）の先生方、職員やボランティアスタッフの運営能力の高さを目の当たりにしました。

韓国でのインターンシップでは、自身の研究を行うに当たり視野を広げることが出来、日本では気付く事ができない点や、当たり前前に感じていたことがそうではないと発見できるいい機会となりました。インターンシップ実施日以外には周辺の博物館も調査しましたが、大韓民国における博物館教育の水準の高さを実感致しました。この経験を生かし、日本の博物館が100年後にも博物館として存在するための研究を行っていきたいと思います。最後になりましたが、今回インターンシップへ行く機会を与えて下さいました國學院大學大学院の先生方にお礼申し上げますとともに、受け入れて下さった楊館長をはじめとする釜山博物館の学芸士の先生と通訳の先生、職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

(博士課程後期史学専攻博物館学コース 2年 小島有紀子)



釜山広域市立博物館本館



指導風景



インタビュー後の記念撮影



子供の体験プログラム



初等教師の歴史教室



文化体験館（茶道体験）



## ②中華人民共和国西安于右任故居紀念館(2010年7月29日から8月27日:うち12日間)

西安于右任故居紀念館は歴史の古い中国でも特に古い歴史を持っている西安市の城壁内にあり、明・清代の最高学府である関中書院がある書院門の通りに位置する博物館です。于右任故居紀念館はその名の通り、書家・思想家として名高い于右任がかつて暮らした家を修復・改築して造られており、展示は于右任の生涯を年代別に見せる展示と、于右任の書の展示で構成されています。紀念館の1階エントランスの展示室としての導入に当たる重要な場所2階を画商に貸しており、この博物館はただ単に于右任の事を展示する目的だけでなく、博物館を使って利益を得る努力を行っています。展示室を貸すことで于右任故居紀念館は賃料を得ることができ、画商は博物館である于右任故居紀念館で絵を販売しているという顧客の信頼を得ます。また、オークションなどでも相互の協力関係があり、非常に興味深いものでした。

1日の流れは、開館前の掃除、お客様へのお茶入れをして開館するという流れで、開館後はエントランスでお客様を待ちます。お客様が来たらチケットを売り、展示室に電気をつけます。17時半に閉館し、電気を消して業務日誌を書き業務が終わります。この他にお客様の対応や、1カ月間に3度お花を生ける仕事もあります。私がさせていただいた業務は、朝のお茶入れと掃除、開門、生花、お客様来館時の展示室の点灯などです。業務の間に博物館について立地と天気の関係や、エントランスの重要性などを考える事が出来ました。

出勤日以外は周辺調査を実施しましたが、中国の博物館は国が博物館の評価を明確にしている点が面白く、評価を受けている博物館はその証明を博物館のどこかに掲げてあり、参考になりました。古い歴史に裏付けられた素晴らしい展示物に深く感動しましたが、その他に博物館が利益を得るための様々な努力にも感動しました。

西安は古い歴史都市であり、人々はその歴史をうまく利益に結びつけ、歴史を残しつつも常に開発を続け新しくしていました。しかし、これまでは古さを残しつつ新しくされてきましたが、近年行われている急激な開発は古いものを壊して新しいものを作る開発のようで、今残っている昔ながらの街並みや古い家がどんどん無くなっています。生活の豊かさと歴史の古さをどちらも守るのは大変なことです。歴史の古いものを残すことは現在苦勞しても100年後の人に残せる大切な遺産です。中国ならではの手腕を持って、歴史の古いものを利益にかえる方法をこれからも実践してもらいたいと思います。日本には到底考えが及ばなかった博物館の利益、経営についてインターンシップに行ったことにより考えることができました。中国の博物館に見る積極的な利益の追求は、今後の日本の博物館も学ぶべきものであります。中国で得た新しい視点でこれからも日本の、また、世界の博物館について考えていきたいと思います。

(博士課程後期史学専攻博物館学コース1年 野中優子)



西安于右任故居紀念館



業務風景(受付:左 野中)

## 国内インターンシップ実施報告

### ①東京国立博物館(2010年9月から10月:うち15日間)

東京国立博物館は大きく分けて総務部・学芸企画部・学芸研究部の3つの部門で構成されており、私は学芸研究部門の上席研究員の先生の下でインターンシップをさせていただきました。主な業務は、基礎調査のデータ入力と収蔵品運搬における補助業務でした。

今後の博物館において学芸員は専門知識のみでは勤まらず、専門分野に対する熱意と知識を有していることを前提として、様々な情報を正しく適切に処理・運用できる柔軟な思考力と知識欲、作品に対しても関係各所や人(同僚や来館者も含む)に対しても細やかな配慮ができる高いコミュニケーション能力を持つことが強く求められると、インターンシップを通じ実感しました。今後は自らの研究に励むと同時に、この経験を活かし学芸員となれるよう一層努力していきたいと思えます。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース2年 辻夏奈子)



東京国立博物館本館



インターンシップ風景①



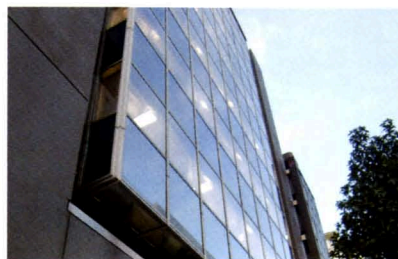
インターンシップ風景②

### ②丹青研究所(2010年8月から9月:うち15日間)

私は8月23日～9月10日の15日間、「丹青研究所」にて国内インターンシップをさせていただきました。丹青研究所は、株式会社丹青社がディスプレイ業界初のシンクタンクとして設立した文化空間の在り方を追求する専門研究機関として、基礎調査・コンサルティング・デザイン設計・情報サービスを行っています。私が丹青研究所でさせて頂いた業務内容は主に2つあり、丹青研究所発行の「ミュージアム・データ」に載っているリニューアル博物館に関する情報の入力作業と、全国の博物館に関する書籍資料を元に、登録・相当・類似施設の種類をMDBに入力していく作業でした。

今回のインターンシップを通して多くの博物館の情報に触れることにより、博物館施設のリニューアルの傾向や、博物館法による登録制度の意義など、様々な問題に気付く事ができました。今回の経験で、改めて考え直した問題や、今までは私の中で意識の低かった問題などを認識することができました。今回、経験し認識した博物館の諸問題や学んだことを活かして、今後の研究に役立てていきたいと思えます。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース1年 多賀 梢)



丹青社本社



文化空間情報開発研究室

### ③(株)トータルメディア研究所:千葉市科学館(2010年8月から12月:うち15日間)

千葉市科学館は市民参加を運営の軸とした博物館である。館の運営には積極的なボランティアの方々を活用し、館運営の軸に据えているように感じた。今回、千葉市科学館で実際にボランティア活動をされている方々と普段はどのように活動しているのかであるとか、それを支える館職員の方々がどのようにサポートしているのか、実際に職場体験させていただき、多くを学ぶことが出来た。その様にして実体験をすることで、ボランティア活動の多様性や多くの秘めた可能性を感じる事が出来たように思う。また、ボランティア活動だけでなく特に展示を中心として、博物館における展示ワークショップの企画を立てさせていただいたり、展示の解説をさせていただいたり、その他多くのことを実地で学ばせていただいた。それぞれの体験が博物館実践学として、非常に貴重な体験になった。今後はそれを活かしてより一層の研究発展を目指したいと思う。

(博士課程前期史学専攻日本史学コース 1年 藤井未央)



業務内容打ち合わせ



車椅子利用見学者対応実習①



車椅子利用見学者対応実習②

### ④廣池千九郎記念館(2010年8月:うち15日間)

私は8月8日から15日間、学外のインターンシップを千葉県にある麗澤大学附属博物館『廣池千九郎記念館』で実施させて頂きました。廣池千九郎記念館(以下記念館)は、麗澤大学の創立者であり、総合人間学「モラロジー(道徳科学)」を創建した法学博士廣池千九郎を顕彰した人物記念館で、廣池博士の生涯・業績を遺品や遺稿、映像、パネル等を用いて展示、紹介しています。

インターンシップ期間中に行った主な業務は、酸性紙の取替え作業や遺墨目録の作成、遺品の整理などです。作業をしながら、資料を保存する際に留意する点を丁寧に指導して頂き、何十年も先を見越した上で資料を取り扱う事の難しさを実感しました。インターンシップを通して、博物館の現場の裏側を知ると共に、今の自分に足りない部分、伸ばしていくべきところを明確に出来たので、この経験を生かし今後自分の研究、勉強に励んでいきたいと思えます。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 松林有紀)



廣池千九郎記念館



特殊ライトによる展示



業務風景

## 学内インターンシップ実施報告

國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター(2010年5月から2011年2月:うち30日間)

基本となるインターンシップ内容は、伝統文化リサーチセンター資料館所蔵の大学関係資料の資料化であり、本学准教授内川隆志先生指導のもと博物館学コース博士課程前期2年在籍の大貫・水谷・渡邊の3名によって、國學院大學学術資料館が所蔵する樋口清之博士関係資料の目録化と、掛け仏資料の実測を行っている。それぞれを2つの作業として分担し、1つめの作業が樋口清之博士関係資料の整理、分類、目録化は大貫・水谷が担当した。最終的な目標としては、『樋口清之博士寄贈資料目録』として目録を刊行し、さらに伝統文化リサーチセンターの資料館で「樋口清之展」を開催することを目指している。当面の作業は、未整理資料の内容確認と目録化であり、平成22年度の学内インターンシップ終了後も、作業は引き継がれることとなる。

2つめの館蔵資料の目録化(採拓・実測・デジタルトレース)は渡邊が担当している。館蔵資料のうち、鏡像の採拓・実測・撮影を実施して、資料報告を行うことが目的である。

その他の活動として、伝統文化リサーチセンター資料館の企画展の説明や企画展開催までの事務作業の見学、夏季休暇中のワークショップの手伝い、館蔵資料の外部貸出などを見学する機会も得られた。

学術資料館では、和歌山県立博物館への資料貸出手続きと資料の梱包作業を見学した。資料貸出までの手続きとして、教育委員会への申請方法、手続き書類の作成、運送会社への依頼、資料の状態確認の作業について講義を受ける。あわせて、後日に貸借資料返却手続きの見学も行った。

また、特別展「竹取物語」の会場設置の見学・手伝いとして資料館の展示替えの様子を見学した。パネルや展示台の移動や準備、配線なども行った。その際、展示の構成や資料の配置、パネル文面やパネル作成に関する説明と、絵巻物資料の扱い方と光源による劣化に注意するなどの講義も受けた。夏季休暇中には、白根記念渋谷区立郷土博物館・文学館で開催された、勾玉づくりの体験学習講座の手伝いも行った。

このインターンシップで、資料の目録化の方法や、博物館での実務的な仕事を体験することができたことは、今後の活動に役に立つものである。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース2年 大貫涼子・水谷円香・渡邊亜祐香)



インターンシップ風景

(学内インターンシップ指導教員：國學院大學研究開発推進機構 内川隆志准教授)

## 神社博物館および周辺調査 実施報告

### 博士課程後期史学専攻博物館学コース1年 森泉 海

本調査では北関東地方の神社博物館や周辺博物館を対象とした。その多くは関東地区博物館協会に加盟しており、日本博物館協会から発信される各種情報の伝達、当面する課題をテーマとする研究会が開催され、「関博協共同企画展」事業も行われていた。北関東地域は、史跡や名勝はもちろん、伝統文化のほか、近代日本の基礎となった学問・産業の歴史は数知れない。今回の調査結果をさらに飛躍させるには、このような多方面の分野も今後の研究対象に加えることが不可欠であり、それらを背景とした中での神社博物館の存在意義を導き出し、神社を中心とした地域社会、文化の本質理解に繋げていきたいと思う。

### 博士課程前期史学専攻博物館学コース1年 坂倉永悟

本調査では、広島県内の神社博物館を担当した。厳島神社宝物館・大蔵神社宝物殿などが調査対象であったが、登録博物館であっても十分に博物館機能が果たされていない部分もあり、博物館的施設といえる宝物館が多くないことも分かった。しかし神社は古くからその地に所在し、神社を中心とした都市計画がなされたという歴史もあるなど、地域に根ざしてきた経緯をもつ。宝物館は地域の文化遺産を所蔵する地域博物館的施設であり、神職は地域の学芸員的な役割を果たしているといえる。信仰という枠組みを超えた役割を果たしてきた神社の宝物館は、現状では博物館と呼ぶには不十分ではあるが、博物館の要素を含んでいるといえる。

### 博士課程前期史学専攻考古学コース1年 佐藤直紀

神社博物館調査では、山形県内の3つの神社博物館を対象としました。調査の目的は、「信仰地が如何に分かりやすい形で信仰の概要を信仰者および観光客に提示しているのか」を捉えることを通じて、「学問を如何に分かりやすい形で市民に提示すればよいのか」を考えることでした。結果として、神社所蔵宝物の展示に終始している博物館が殆どで、それ程よい事例を得ることが出来た訳ではありません。しかし、神社博物館関係者各位の話を通じて、今後の考察につながる知見を多く得ることが出来ました。このことを踏まえ、専門性を高めて市民に分かりやすく学問を提示していく形を模索していきたいと考えております。

### 博士課程前期史学専攻博物館学コース1年 鈴木孝規

国内神社博物館調査では「白山信仰とその祭祀」をテーマとし、その祭祀に関する宝物や遺物が現在どういう状態にあり、かつどのように展示・公開・活用がなされているかを調査するために、石川県・福井県・岐阜県を調査した。社宝の展示を目的としている場合には問題のない展示がされていたが、展示全体を見れば仏教色が強く、純粋に神社だという固定観念を持ち訪れた人には違和感を与えてしまう。更に多くの展示品は宝物であるため美術色が強く、訪れる人にとっては鑑賞の面でしか印象に残らないようなケースも危惧される。白山信仰の理解につながる展示の意図と個々の活動や展示の連携や、資料そのものの展示に留まらないその地の所縁や信仰、行事等も含めての活動が望まれる。

## 海外博物館調査

### ①トルコ(2010年9月11日から9月17日:7日間)

私はトルコの近代博物館の成立について修士論文をまとめました。後期課程ではこれを発展させ、トルコを始めとするイスラーム地域の博物館の成立と発展、博物館が果たす政治的な役割などをまとめたいと考えております。この度の海外調査ではイスタンブール、アンカラ、イズミルというトルコの3大都市とベルガマ(ベルガモン)、ゲブゼという地方都市の13館の博物館を調査いたしました。

調査ではこれまで調べてきたイスタンブールの国立考古学博物館(旧・帝国博物館)を再検討し、首都アンカラや商業都市イズミルの博物館と比較をいたしました。更に、ヨーロッパ諸国による文化財の盗掘が行われた遺跡とその地域の博物館の展示を目の当たりにし、文化財の盗難と保存について考える事が出来ました。一週間という限られた時間ではありましたが、多くの博物館を調査することが出来、これからの研究の課題を発見できましたことはこのプログラムの補助があったからこそだと思います。これからこの調査で得た知識や視点を生かし、研究を進めたいと思います。

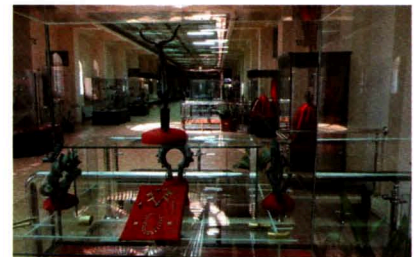
(博士課程後期史学専攻博物館学コース 1年 野中優子)



イスタンブール国立考古学博物館



ベルガマ(ベルガモン)の遺跡



アナトリア文明博物館展示室内

### ②イギリス(2010年9月4日から9月10日:7日間)

今回、大英博物館や自然史博物館、ナショナル・ギャラリーなど各博物館における展示室の構成や照明計画などを中心に、その中で各展示資料がどのように展示されているのか、という側面に焦点を当て調査をし、様々な要素を見極め、今後の資とすることができました。

同時に、大英博物館では「Student's Room」という部屋があり、実物の絵画資料を閲覧、研究する場が設けられていることや、自然史博物館では収蔵庫の一部やその作業内容を一般公開しているコーナーがあることなども知りました。実際に訪れ、目で見て、肌で感じることで、予想以上のものを吸収したことは、今後の研究への貴重な経験となりました。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 大塚恵理子)



大英博物館グレートコート



国立科学産業博物館



自然史博物館

### ③フランス(2010年9月29日から10月11日:13日間)

私は卒論において展開したテーマを継続し、ルネ・ラリックの宝飾工芸、ガラス工芸を研究対象としており、今回ラリックの作品を通じて「工芸と環境展示」について研究するため、フランスで調査を実施した。今回の調査では、ノートルダム・ド・フィデリテ修道会礼拝堂 (Congrations Notre-Dame de Fidélité カルヴァドス県) およびノートルダム・ド・フィデリテ女子寄宿舎〈ラ・メゾン〉附属礼拝堂 (Chapel du Foyer <La Maison> de Notre Dame de Fidélité パリ) を訪問した。いずれの教会においてもラリックが祭壇や装飾を手がけている。

ラリックの作品に関しては、作品が本来持つ、祈りの場を飾るという機能、さらに教会という総体を最大限に生かすため、できうるかぎりその建物内に置いておき聖性を保つことが望ましいのではないだろうか。作品の保存と機能、総体の問題は今後も追及してゆきたい。また、工芸の真の芸術的価値を伝えてゆくための美術館というものを考えていかなければならない。

(博士課程前期史学専攻美学・美術史コース 1年 樋田麻純)



ナンシースタニラス広場



パリ市内



ナンシー市内

### ④大韓民国(2010年8月17日から8月24日:8日間)

我が国では、1996年に「ユニバーシティ・ミュージアムの設置について」の報告が提言されたが、大学博物館に関する人的制度(専門職員制度の有無や研修等)や物的(資料の収集保存等)整備、施設規定等については明言されておらず、大学博物館に関する明確な法的定義が存在していません。大学博物館の対象範囲が定まっておらず、各研究者にその判断が委ねられているという状況が続いています。そこで今回、大規模設置令によって「博物館を大規模に必ず設置しなくてはならない」と定められ、1970年代後半まで公共博物館に代わって文化遺産の調査・研究・資料の収集・保管および公開、教育的機能を果たしてきた韓国の大規模博物館を調査致しました。韓国の大規模博物館における教育普及制度のあり方や学校との連携には圧倒されるものがあり、今後もより詳しく韓国における大規模博物館を調査し、博物館の「ひと・もの・場」を重視する考え方と各大規模博物館の設置理念を基盤に研究し、今回の調査での結果を基に韓国における大規模博物館の理論的枠組みを検討・設定しデータベースを作成し、我が国の大学博物館における法的不備の問題や軽視されてきた教育普及活動の側面に対してより多角的に研究していく所存です。

(博士課程前期史学専攻博物館学コース 1年 森 瞳)



ソウル大規模博物館



淑明女子大規模博物館



崇実大規模キリスト教博物館

## 🌀 プログラム受講者の動向・その他

### 入学者数

- ・平成 21 年度  
博士課程前期 2 年：6 名、博士課程後期 2 年：2 名
- ・平成 22 年度  
博士課程前期 1 年：12 名、博士課程後期 1 年：4 名（プログラム対象者 3 名）、複専修：4 名
- ・平成 23 年度入学予定者数（平成 22 年 12 月 1 日現在）  
博物館学コース博士課程前期 一般 5 名、留学生 1 名、社会人 3 名 博士課程後期 1 名

### 学位取得

- ・平成 21 年度  
博士（歴史学）1 名 今野 農 「野外博物館成立史の研究」  
修士（歴史学）7 名 大竹 弘高 「日本刀展示の研究」  
大貫 洋介 「博物館における雛型・模型の教育的活用」  
鎌形慎太郎 「地域博物館における近世文書の教育的活用に関する研究」  
真田 芳彰 「ドイツの郷土博物館について」  
野中 優子 「トルコにおける近代博物館の成立と発展」  
藤崎 温美 「『文学館』の調査と分類」  
森泉 海 「戦時下における博物館」
- ・平成 22 年度 修士論文題目  
大貫 涼子 「衛生展覧会の意義と展示の変遷」  
片柳 圭輔 「新聞メディアにみる博物館の一考察」  
田島 太良 「歴史展示の研究」  
辻 夏奈子 「博物館教育研究史～博物館教育概念の変遷と日本教育史～」  
渡邊亜祐香 「仏教美術の展示」  
有田 大悟 「北海道における博物館の成立と展開」

### 進路先一覧

- ・平成 21 年度進路：静岡県埋蔵文化財センター（2 名）、野田市郷土博物館、埼玉県歴史と民俗の博物館、本学学術資料館嘱託学芸員、博士課程後期進学（3 名）
- ・平成 22 年度進路（平成 22 年 12 月 1 日現在）：昭和音楽大学非常勤講師、神奈川県立歴史博物館、目白大学大学院国際交流科兼任講師（博物館学研究担当）

### 刊行物

- ・平成 21 年度：『博物館学紀要』第 34 輯、『院友学芸員』Vol.3、『高度博物館学教育プログラム』リーフレット
- ・平成 22 年度：『神社博物館事典』、『高度博物館学教育プログラム』リーフレット（改訂版）、  
『博物館学紀要』第 35 輯、『院友学芸員』Vol.4



## 学会発表

全日本博物館学会 第36回研究大会 研究発表 6月13日(土) 於明治大学駿河台キャンパス

大貫 涼子 (博士課程前期 2年) 「衛生展覧会の展示についての一考察」

森泉 海 (博士課程後期 1年) 「戦前期の博物館について」

野中 優子 (博士課程後期 1年) 「トルコにおける近代博物館の成立」



## 発表論文等

2009年12月『博物館学雑誌』第35巻第1号 全日本博物館学会

伊藤 大祐 「ブヒクロサン夫妻と日本人村についての考察」

2011年3月『博物館学雑誌』第36巻第1号 全日本博物館学会

野中 優子 「トルコの博物館の成立と発展」

森泉 海 「満州国立中央博物館の展覧会」

2010年3月『國學院大學博物館學紀要』第34輯 國學院大學博物館学研究室

今野 農 「戦後初期における日本博物館協会の『戸外文化財』構想」

大貫 涼子 「衛生展覧会に関する一考察」

辻夏 奈子 「日本における博物館教育研究史—博物館教育概念の確立期における研究傾向の変遷と日本教育史—」

水谷 円香 「博物館経営の近年の傾向—博物館経営論の現在と、『博物館研究』にみる博物館の経営—」

渡邊亜祐香 「仏教美術品の展示(序論)—仏教美術の展示史を主題として—」

2011年2月『神社博物館事典』

上西 亘 「神社博物館史について」

伊藤 大祐 「神社博物館における保存」

森 健太郎 「神社博物館の機能と類型」

小島有紀子 「神社博物館の展示に関する一考察」

2011年3月『國學院大學博物館學紀要』第35輯 國學院大學博物館学研究室

渡邊 真衣 「地域振興と文学館」

李 文子 「韓国の博物館関係法律」

河合奈々瀬 「卷子本展示序論」

齋藤 千秋 「野外博物館再考—「遺跡・史跡野外博物館」と「民家野外博物館」の峻別—」

中村 千恵 「野外博物館のバリアフリー」

松林 有紀 「ミュージアム・コンサートに関する一考察」

2011年3月『全博協 研究紀要』第13号 全日本博物館学講座協議会

落合知子・小島有紀子・野中優子・大貫涼子・田島太良・辻夏奈子・水谷円香・渡邊亜祐香

「平成21年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」採択に伴う  
大学院授業としての「博物館学専門・特殊実習」について」

## 博物館学教員研究業績

### ●教授 青木豊

- 著書 2010年7月 『博物館学人物史 上』(株雄山閣(共編))  
2010年8月 「熊手考」『日本基層文化論叢』(株雄山閣(共著))
- 論文 2010年3月 「博物館学史序論」『國學院大學博物館學紀要』第34輯 國學院大學博物館学研究室  
2010年11月 「高度博物館学教育の実践」『博物館研究』第45巻第12号  
2011年3月 「神社博物館の社会的必要性」『神社博物館事典』博物館学教育研究情報センター  
2011年3月 「文部科学省『大学院教育改革GP』採択による高度博物館学教育に至る経緯と実践」  
『國學院大學博物館學紀要』第35輯 國學院大學博物館学研究室

### 学会発表等

- 2010年6月 「博物館の現状と学芸員養成」(学会基調講演)全国大学博物館学講座協議会全国大会

### 調査研究報告等

- 2010年3月 「高知県土佐郡大川村・吾川郡いの町における神社奉納鏡の調査」  
『國學院大學考古学資料館紀要』第26輯 國學院大學考古学資料館

### その他

- 2009年11月 新聞報道 中国『西安晩報』「日本学者来陝西考察」  
2010年3月 「鏡と信仰」(講演録)  
『瑞花双鳳五花鏡・梅花文鏡宮の復元模造』船橋市教育委員会
- 2010年7月 「和鏡とその信仰」(講演録)  
富山県埋蔵文化財センターニュース「埋文とやま」Vol.11 富山県埋蔵文化財センター
- 2010年10月 「展望と方向性、2氏に聞く検証県立博物館5年」山梨日日新聞

### ●准教授 落合知子

- 著書 2009年9月 『野外博物館の研究』(株雄山閣)  
2010年7月 『博物館学人物史 上』(株雄山閣(共著))
- 論文 2010年10月 「野外博物館のあり方」『考古学ジャーナル』2010年11月号ニュー・サイエンス社  
2011年3月 「神社の野外博物館」『神社博物館事典』博物館学教育研究情報センター  
2011年3月 「平成21年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」採択に伴う大学院授業としての「博物館学専門・特殊実習」について」  
『全博協 研究紀要』第13号 全日本博物館学講座協議会(共著)

### その他

- 2010年7月 新聞報道『北信タイムス』「共同研究教育交流事業に関する合意覚書」  
2011年3月 「平成21年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」採択における「高度博物館学教育プログラム」の実践について」『全日本博物館学会ニュース』No.95

### ●助手 下湯直樹

- 著書 2010年7月 『博物館学人物史 上』(株雄山閣(共著))
- 論文 2011年3月 「神社博物館とその黎明期の人々」『神社博物館事典』博物館学教育研究情報センター  
「時代別展示から見る東京国立博物館の課題」  
『博物館学雑誌』第36巻第2号 全日本博物館学会(投稿中)

博物館学教育研究情報センター構成員研究業績

●特任助教 伊藤慎二

- 著書 2010年10月 『金子出雲と薬師如来』 本願山長福寺（共著）  
2011年3月 『先史・原史時代の琉球列島：ヒトと景観』 六一書房（共編著）
- 論文 2009年9月 「10 - 13世紀前後の琉球列島：対外交流と文化的主体」  
『考古学ジャーナル』2009年10月号（587号）ニュー・サイエンス社  
2010年3月 「ヒトはいつどのように琉球列島に定着したのか？：琉球縄文文化の断続問題」  
『考古学ジャーナル』2010年3月号（597号）ニュー・サイエンス社  
2010年3月 「北アメリカ・フィグ島の環状貝塚」『考古学研究』第56巻第4号（共著）  
2011年3月 「神社博物館と考古資料」『神社博物館事典』博物館学教育研究情報センター
- 学会発表等  
2010年3月 「Shell-Midden and Prehistoric Landscape in the Southern Primorye, Russia」  
Research on Cultural and Ethnic Transitions of Continental and  
Maritime Adaptational Systems : Neolithisation and Modernisation in Primorye  
Region  
2010年8月 「琉球縄文土器研究の論点と課題」沖縄考古学会例会

●リサーチアシスタント 上西亘

- 論文 2010年1月 「大国隆正の言語学研究序説」『神道宗教 第217号』  
2011年3月 「神社博物館史について」『神社博物館事典』博物館学教育研究情報センター
- 学会発表  
2009年10月 「大国隆正著『音凶神解』について」神道宗教学会学術例会 研究発表  
2009年12月 「大国隆正著『音凶神解』諸本の研究」第六十三回神道宗教学会学術大会  
2010年12月 「神社博物館の成立について」第六十四回神道宗教学会学術大会
- その他  
2010年11月 「大国隆正著『音凶神解』の翻刻と紹介」『明治聖徳記念学会紀要』復刻第47号

●リサーチアシスタント 小島有紀子

- 論文 2010年3月 「博物館における展示評価についての一考察」  
『國學院大學博物館學紀要』第34輯 國學院大學博物館学研究室  
2010年12月 「釜山広域市立博物館インターンシップから考察する日本の博物館の問題点」  
『博物館研究論集』第16輯 釜山博物館  
2011年3月 「神社博物館の展示に関する一考察」『神社博物館事典』  
博物館学教育研究情報センター  
2011年3月 「板橋宿旅籠平野屋飯田家伝来の雛道具について」  
『板橋区立郷土資料館紀要』18号（共著）  
2011年3月 「平成21年度文部科学省「組織的な大学院教育改革推進プログラム」採択に伴う  
大学院授業としての「博物館学専門・特殊実習」について」  
『全博協 研究紀要』第13号 全日本博物館学講座協議会（共著）
- 学会発表  
2010年6月 「現代の博物館における展示の位置づけ」全日本博物館学会 第36回研究大会



お問い合わせ先

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-18

國學院大學博物館学研究室

電話：03-5466-0268・0257 FAX：03-5466-0268

國學院大學研究開発推進機構・博物館学教育研究情報センター

電話：03-5466-6676

URL：<http://www2.kokugakuin.ac.jp/museum/>

URL：<http://goo.gl/9nyNG>

(検索エンジンで「高度博物館学」と検索してください)



國學院大學大学院

「高度博物館学教育プログラム」News Letter 2010

発行日 平成23(2011)年 3月 31日

発行所 〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-18

電話：03-5466-0268

國學院大學博物館学研究室

博物館学教育研究情報センター

編集権代表者 青木 豊

印刷 ヨシダ印刷株式会社